

町内現地視察

7月10日(火)、今年度の主要事業の進捗状況の把握や、昨年度事業の尻高地区災害復旧事業の完了、町内企業誘致予定地などを確認するため、町内の現地視察を行った。

今後も当委員会として、机上の論議だけでなく、所管事業を実際に視察していきたい。



①防災備蓄倉庫(本庁裏)

地域防災計画に基づき、避難者数734人(2日間)を想定し、毛布734枚、非常食4404食、保存用飲料水2202本、子ども用紙おむつ240枚、粉ミルク400食を備蓄する計画。大人用紙おむつや生理用品の追加を要望した。今後、内容の見直しを行っていくとのこと。



②尻高地区(岩屋池災害復旧)

昨年の豪雨で被災した岩屋池。復旧も終わり満水状態。総事業費863万円、国庫補助金784万円(90.8%)、町負担金79万円(9.2%)



③町道改良(宇野垂水・松本線、高鳥・中屋敷線)

町道の拡幅事業。交通の安全性向上が期待される。
※写真は高鳥・中屋敷線。



④原井地区(度畑池)農村環境整備事業

県の補助事業による農業用ため池の改修事業(1086万円)、漏水箇所を改修する。受益者負担10%で行われる。



⑤大平楽改装工事

直売所・レストラン・劇場などの改装状況を視察。
※改装費は指定管理事業者の自己資金。



⑥大池公園

園路の整備状況や、実施設計が予算化された親水テラスなどの予定地を視察。

ICT活用事例の授業参観

5月23日(水)に、議員全員で友枝小学校3年生のICTを活用した外国語活動の授業を参観した。既に町内の学校では小学校1年生段階から英語に親しむ活動を平成20年度から導入している。本年は、平成32年度(新学習指導要領)から始まる外国語活動・外国語の移行期間である。上毛町は電子黒板など(ICT機器)を各校に配置し、移行期間(平成30年度～平成31年度)当初より意欲的に取り組んでいる。

新学習指導要領の授業時間は、3～4年生は外国語活動として年間35時間(1時間/週)、5～6年生は外国語として年間70時間(2時間/週)になる。但し、5～6年生の移行期間中の本町は年間50時間である。指導は学級担任、本町ALT、慶応アカデミー派遣(本町独自)ALTが連携して授業に当たっている。

当日の授業は、How are you?(ごきげんいかが?)の単元。児童がペアになり、一方がHow are you?と尋ねると、一方が状態・気持ち(fine, happy, good, sleepy, hungry, tired, sad, great)を表現し、カードを取るといったゲーム感覚の内容で、状態・気持ちを表情やジェスチャーで表現することを学んでいた。そこで活躍するのがICT機器だ。電子黒板にプロジェクターから映し出される映像が学習効果を高めている。ICT機器を使うことにより、学習意欲の向上が図られる点や、教材などの準備が以前に比べ短く容易にできる点が特徴である。機器を使いこなすには教師の資質向上が課題として感じさせられた。

後日確認したが、今は外国語活動担当教員を中心に校内推進体制を整備中で、福岡県教育センター作成の「研修パック」などを活用し、職員全体の研修を進めている。また夏休みにICTの特性を理解し効果的な授業の在り方について研修する場を上毛町教育委員会が計画している。

